

序

平成 30 年度の近畿大学原子炉等利用共同研究は当初、物理系 13 件、化学系 2 件、生物系 3 件の合計 18 件の共同利用申請がありました。しかし、6 月初旬、原子炉の出力調整用の制御棒(調整棒)の不具合により、原子炉の運転を見合わせる事となり、原子炉を利用した共同研究ができなくなりました。その後、原子炉を利用しない共同研究への切り替え申請の募集を行っていましたが、最終的に実施された研究は、18 件の内、9 件となり、実際に原子炉を利用した研究は 3 件にとどまりました。物理系では、13 件の内、8 件の研究が実施されましたが、原子力教育に関するもの 3 件については全て実施することができませんでした。化学系は 2 件の内、1 件のみ、共同利用による研究を推進していた生物系 4 件は全て実施できない状況となり、多くの研究者の皆様にご迷惑をおかけしました。

しかしながら、原子炉が利用できない中、研究者の皆様には工夫を凝らした研究を進めていただき、ここに報告書としてまとめることができました。皆様にはお礼申し上げますとともに、報告書を広くご活用いただきたいと思っております。

なお、近畿大学原子炉はその後、不具合の修理を終え、平成 31 年 4 月に運転を再開しております。平成 31 年度(令和元年度)は、通常通り共同利用の募集を行い、研究を実施していただいているところであります。

近畿大学原子炉は、国内で利用可能な数少ない研究用原子炉の一つです。今後とも研究・教育にご活用いただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

令和元年 12 月

平成 30 年度近畿大学原子炉共同研究運営委員会

委員長 村田 勲